

### 本時の見どころ

社会に参画していく態度を育てるために、薬草を活用したまちづくりを取り上げます。地域の人材や具体的な資料の活用を通し、地域の課題や魅力について見つめ直させます。また、意見の交流やG Tの話を通し、まちづくりにおける連携・協働の大切さについて考えさせたいと思います。

## 社会科（公民的分野）学習指導案

日 時 平成 27 年 11 月 25 日（水）第 2 校時  
場 所 武道場  
年 組 玉名市立有明中学校 3 年 2 組  
男子 18 名 女子 21 名 計 39 名  
指導者 玉名市立有明中学校 教諭 井上裕一

### 1 単元名 「地方の政治と自治～人もまちも元気になる魅力的な玉名のまちづくりについて考えよう～」(東京書籍 P.92～101)

### 2 単元について

#### (1) 単元観

本単元は、地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治発展に寄与しようとする住民としての自治意識を育てることをねらいとしている。

今日、各地方公共団体では、財政の健全化、市町村合併等の新たな枠組みづくり、少子高齢化問題の解決等、様々な取組が行われている。地方に応じた特色ある地域づくりの推進においては、行政主導から住民主導への移行がますます求められている。今後、日本を担う生徒たちにおいても、主権者及び住民の一人として、地域づくりへ参画していく態度を育てることは大切である。

そこで、本単元では、地域を活性化する取組の一つとして発案された玉名市の薬草を活用したまちづくりを取り上げる。この発案にあたっては、崇城大学と玉名市が連携した小岱山に自生する薬草の調査研究が契機となっている。平成 19 年には、小岱山薬草の会と市が協働し、薬草に関する情報発信、市民の健康増進、家庭や地域への普及推進等が進められた。また、九州新幹線新玉名駅内にある薬草カフェでは、薬草の会により、薬草料理の提供をはじめ、説明会や薬草料理体験教室等も実施されている。平成 26 年度には、玉名市は、総務省による地域おこし協力隊の制度を導入し、都市部の人材活用の視点からもまちづくりに取り組んでいる。

教材化にあたり、薬草栽培・薬草料理等の体験活動や地域の関係者の方との交流を位置付け、日常生活で見過ごしてしまいがちな薬草への関心を高めさせたい。また、地域の抱える課題や地域の魅力を踏まえ、効果的なまちづくりの推進プランの作成・検討をさせることで、人々の連携・協働の大切さについてとらえさせることができる考える。

このような「地域のまちづくり」を教材化し、多様な学習活動を展開していく

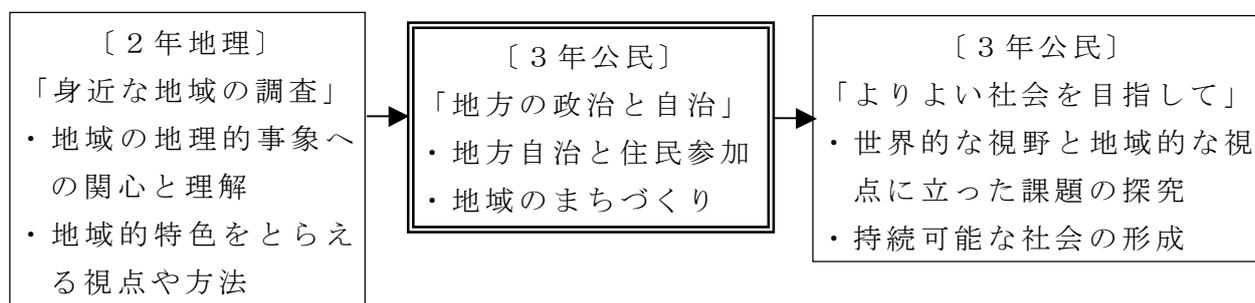
ことで、地域の一員として玉名市の発展のために積極的にかかわっていかうとする態度を育てることができると考える。さらに、生徒の社会的事象をとらえる見方や考え方の基礎を養うとともに、将来国政に参加する公民としての意欲と態度を育てることにつながり、意義のあることだと考える。

【研究テーマとの関連：教材選択の条件】

地域の現在進行中のまちづくりを教材化することで、少子高齢化、観光産業の振興、地域資源の有効活用等、具体的で多様な視点から考察が可能となり、生徒に問題意識や切実感をもたせ、追究させていくことができると考える。このような観点から、本教材は、「課題性」を含む教材になると言える。

(2) 系統観

本單元における系統は以下の通りである。



(3) 生徒観

社会科の学習において、全体的に、資料を読み取ったり考えを記述したりする活動については定着しつつあるが、記述内容や考えを自ら積極的に発言する生徒は少ない。1分スピーチ後に交流の場を設けたり、班活動を位置付けたりしながら、表現活動の機会を工夫しているところである。

本單元にかかわる生徒の実態は、次の通りである。

実態調査結果 〈上段：2015.9.2実施 下段：2015.10.27実施 ( ) :人数〉

<p><b>1 玉名市の魅力は何だと思いますか。〈複数回答〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラーメン(11) ・しょうぶ祭り(7) ・温泉(7) ・花火大会(7) ・トマト(6)</li> <li>・いちご(5) ・薬草(1) ・その他〔みかん, 干拓堤防, 海苔, 自然等〕</li> </ul>
<p>・トマト(8) ・薬草(8) ・いちご(7) ・温泉(6) ・ラーメン(5)</p> <p>・花火大会(3) ・その他〔しょうぶ祭り, 大俵祭り, 海苔, 自然, 等〕</p>
<p><b>2 玉名市のまちづくりで、中心に取り上げたいものは何ですか。〈複数回答〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト(15) ・花火大会(15) ・いちご(14) ・しょうぶ祭り(11)</li> <li>・ラーメン(7) ・干拓堤防(6) ・海苔(6) ・その他〔温泉, たまニャン等〕</li> </ul>
<p>・薬草(10) ・トマト(7) ・いちご(7) ・花火大会(6) ・しょうぶ祭り(5)</p> <p>・干拓堤防(4) ・その他〔大俵祭り, 飛行場, 神楽, 湯担い節等〕</p>
<p><b>3 玉名市で課題となっていると思われるものは何ですか。〈複数回答〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化(12) ・人口減少(7) ・交通の便(7) ・財政(6) ・農業後継者(4)</li> <li>・その他〔ごみポイ捨て, PR不足, 少ない観光客数, 低い薬草の認知度等〕</li> </ul>
<p>・少子高齢化(16) ・過疎化(5) ・魅力PR(4) ・人口減少(3)</p> <p>・薬草PR(2) ・財政(2) ・その他〔ごみ, 無関心, 一体化等〕</p>

2回のアンケートを通した、本單元に関する生徒の変容を見てみると、全体的に、生徒の薬草を活用したまちづくりに対する関心は高まりつつある。これまでに、総合的な学習の時間における地域おこし協力隊の職業講話をはじめ、薬草クッキーの試食、薬草栽培体験、劇づくり等、多様な学習活動に取り組んできたことが

直接の要因として考えられる。

項目別に見てみると、1の玉名の魅力については、薬草以外に、ラーメン、温泉、いちご、トマトを挙げる生徒が多い。生活経験に加え、メディアによる報道等も強く影響していると考えられる。また、2のまちづくりとして中心に取り上げたいものとしては、トマトやいちごが上位に挙がっており、地域の農産物の活用を望む生徒が多いことが分かる。玉名の薬草に対する認知度は、10月の実態で、大きく高まっており、様々な学習を通し、薬草を活かしたまちづくりの知識や情報について触れる機会が増えたことが要因だと考える。3の玉名市の課題については、少子高齢化、人口減少を挙げた生徒が多く、市の過疎化に対する問題意識は高いと言える。

これらのことから、まずは、薬草のもつ魅力に触れさせ、薬草を活用したまちづくりの現状についてとらえさせることが必要であると考え。今後、本単元の学習を既習内容と関連させながら、地域の魅力や課題等をとらえ直させ、玉名市の有効なまちづくりの方策を探究していく学習に取り組ませていきたい。

#### (4) 指導観

- ・ 本単元の地域のまちづくりに対する関心を効果的に高めるために、地域人材を効果的に活用する。地域おこし協力隊の方に来校をお願いし、職業講話（総合）や薬草を使った郷土料理実習（家庭科）を位置付ける。社会科では、地域の方（薬草会社プロジェクト、玉名市企画経営課）との交流時間を位置付ける。
- ・ 単元を貫く課題として、「人もまちも元気になる魅力的な玉名のまちづくりについて提案しよう」を設定し、追究過程にまちづくりに関する調査、まちづくりプランの作成、プランの検討といった学習活動を位置づけ、各学習過程において、問題意識を高めながら追究活動に取り組ませる。
- ・ まちづくりプランの作成においては、多様な視点から検討できるように、市（行政）、農業従事者、温泉旅館、飲食店、市民の立場ごとに班を編成し、それぞれが、取り組むことや協力したいことについて考えさせる。
- ・ 主体的な調査活動が展開できるように、これまでの市の問題点や魅力をふまえ、生徒自らが入手した資料や、ゲストティーチャー（G T）から聞き取った内容及び資料等を活用させ、個人や班で具体的に主張ができるように支援する。
- ・ 班や全体の交流場面では、個人や班相互のとらえ方の違いをシートや発言から見取り、発問の工夫や意図的な指名、補助資料の提示等の手立てを行い、思考を深めていくようにする。
- ・ 地域のまちづくりについてのキーワードやG Tの言葉を基にして学習内容を振り返らせ、今後のまちづくりへ明るい展望をもたせ、社会参画への態度の育成につなげたい。

### 3 単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	地方自治に対する関心を高め、身近な地域の特色ある政治について進んで調べたり、地域住民の一人として住民の政治参加のあり方について考えたりさせる。
---------------------	---

社会的な 思考・判断・表現	地方自治の具体的な事例から，地域の課題や地域住民の一人として主体的に政治に参加することの意義について，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現させる。
資料活用の技能	まちづくりについて，様々な情報手段を活用し，必要な情報を適切に選択して読み取ったり，プランを作成したりさせる。
社会的事象についての知識・理解	具体的な事例を通して特色あるまちづくりの意義に気付くとともに，政治の課題を解決するためには，国民の積極的な政治参加が求められていることを理解する。

#### 4 単元の指導計画と評価（規準）計画（全7時間 本時 6/7）

次	時	主な学習活動	評価
1	1	・地方公共団体のしくみや住民参加の方法をつかむ。	・地方自治のしくみや政治参加の方法の概要を理解している。 【知識・理解】
2	1	・G T（市企画経営課）から，地域のまちづくりの現状と市の取組について聞き取る。	・まちづくりに関心を持ち調べようとしている。 【関心・意欲・態度】
単元を貫く課題：「人もまちも元気になる魅力的な玉名のまちづくり」プランを提案しよう。			
3	1	・玉名市の課題や魅力について整理する。 ・G T（薬草会社プロジェクト）との交流を通し，薬草を活かしたまちづくりの取組のよさについて考える。	・薬草を活かしたまちづくりのねらいについて，住民の健康や産業の振興という視点から考えることができる。 【思考・判断・表現】
4	2	・地域おこし協力隊が考えられている「薬草のまちづくり」プランを基に，様々な立場から改善点や関連した取組について考えさせる。 ・立場毎に班を編成し，それぞれの主張点や改善案をまとめる。	・まちづくりプランの作成に役立つ情報を適切に選択して活用することができる。 【資料活用の技能】
5	1 本 時	・前時までに考えた改善点や新たな提案内容を交流し，市民の健康やまちの活性化等，様々な視点から検討することを通し，まちづくりで大切なことについて考える。	・効果的なまちづくりについて，市，住民，各事業者等，様々な立場の連携・協働の必要性に触れながら説明することができる。 【思考・判断・表現】
6	1	・修正したまちづくりプランを提案し，自らと政治とのかかわりについてまとめる。	・学習したことを活かし，地域住民の一人として自分にできることは何かを考えている。 【関心・意欲・態度】

## 5 本時の学習

### (1) 本時の目標

「薬草のまちづくり」プランを基に、行政、市民、事業者等の様々な立場から意見を交流することを通し、まちづくりで大切なことについて、自分の考えを連携・協働の点からまとめることができる。

### (2) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	学習形態	○教師の指導 ・予想される生徒の反応	教材資料等	
導入	5	1 地域おこし協力隊のプランの考えを確認する。	一斉	○地域おこし協力隊の言葉を提示し、学習への関心を高めさせる。 ・薬草のまちづくりについて考えよう。	大型モニター 動画	
展開	40	「人もまちも元気になる魅力的な玉名のまちづくり」プランを提案しよう。				
		2 各立場から考えたプランを発表する。	一斉	○市、農業従事者、温泉旅館、飲食店の立場から、「薬草のまちづくり」プランを充実させるための具体的な施策を発表させる。 ・市の広報誌で、古民家での体験イベントの紹介をします。(市) ・耕作放棄地を活用し、薬草の安定供給を目指します。(農業従事者) ・玉名温泉で、薬草風呂をPRし、観光客を誘致します。(温泉旅館) ・薬草や地域の素材を使った、郷土料理を提供します。(飲食店)	協力隊 プラン  各立場からの プラン	
		3 各立場のプランに対する質問や意見を交流する。 (1) 班で疑問や意見を確認する。 (2) 全体で意見を交流する。	班 一斉	○薬草を活用したプランについて、シンポジウム形式で、提案者やフロアからの意見を交流させる。 ・確実な利益が出なければ、賛同者は増えないと思います。(市民) ・利益主義だけでは、まちづくりは持続しないと思います。人の思いやつながりがまずは大切だと思います。(市民) ・自分の健康のために薬草を摂取するという市民の思いがまちづくりにもつながると思います。(市民)	ワークシート	
		4 GTより各立場から出された主張点のよさや協力隊を導入した自治体の成功例についての話を聞く。	一斉	○生徒の考えのよさや、他地域の成功例に触れ、今後の玉名のまちづくりに明るい展望を持たせたい。 ・まちづくりは、様々な考え方があり、話し合うことはとても大切だ。 ・まちづくりが成功している地域は、住民、行政、協力隊などの連携がしっかりしているところなんだ。	地域おこし協力隊	
まとめ	5	5 まちづくりの大切さについて考えをまとめる。	一斉	○本時を振り返り、まちづくりで大切だと思うことについて記述させる。	ワークシート 評価1	

### (3) 本時の評価

場面	評価基準
評価	A：まちづくりについて、様々な立場の連携・協働の必要性について説明するとともに、今後自分にできることを具体的な事例を挙げて述べるができる。 B：効果的なまちづくりについて、行政、隊員、住民、事業者等、様々な立場の連携・協働の必要性に触れて説明することができる。

